

スポーツ実施率向上のための 民間企業等の取組

スポーツ庁
平成30年10月2日

スポーツの実施によりインセンティブが図られる取組①

- 近年、健康増進の取組により、保険料のディスカウントが図られるなど、インセンティブが付与される保険商品も開発されており、保険加入後の生活習慣の見直し、スポーツの習慣化のきっかけづくりとなることが期待される。

【東京海上日動あんしん生命「あるく保険」】

- あるくと保険料の一部が返ってくる、健康づくりを応援する医療保険
- 1日あたりの平均歩数が8,000歩以上となる計測単位期間（6ヶ月）の数に応じて、健康増進還付金の受け取りが可能。
- 2年間で、6ヶ月毎の4計測単位期間に分けて、東京海上日動あんしん生命が定めるウェアラブル端末等により平均歩数を計測。
- 2年後、計測結果に基づき、健康増進還付金（健康増進還付金額÷4×「1日あたりの平均歩数が8,000歩以上となった計測単位期間の数」）を受け取れる。



あるくと保険料の一部が返ってくる*

健康づくりを応援する医療保険

※1日平均8,000歩以上歩くと、6ヶ月ごとの達成状況に応じて健康増進還付金を受け取り可能

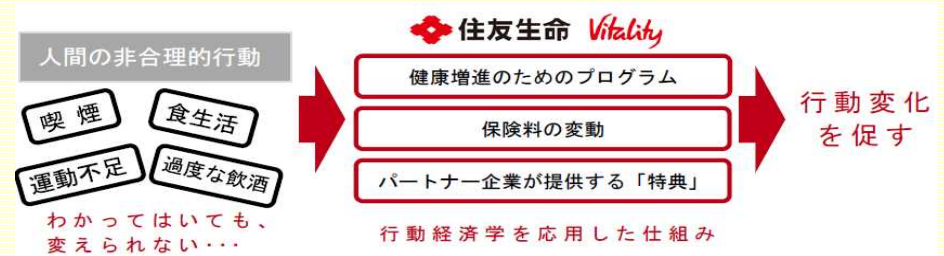
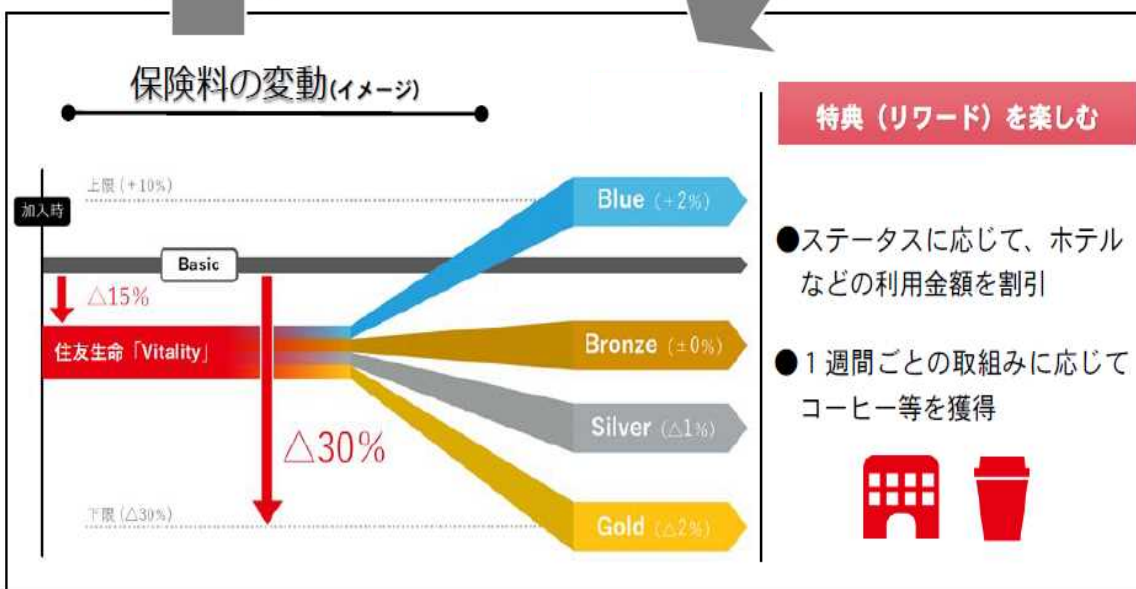
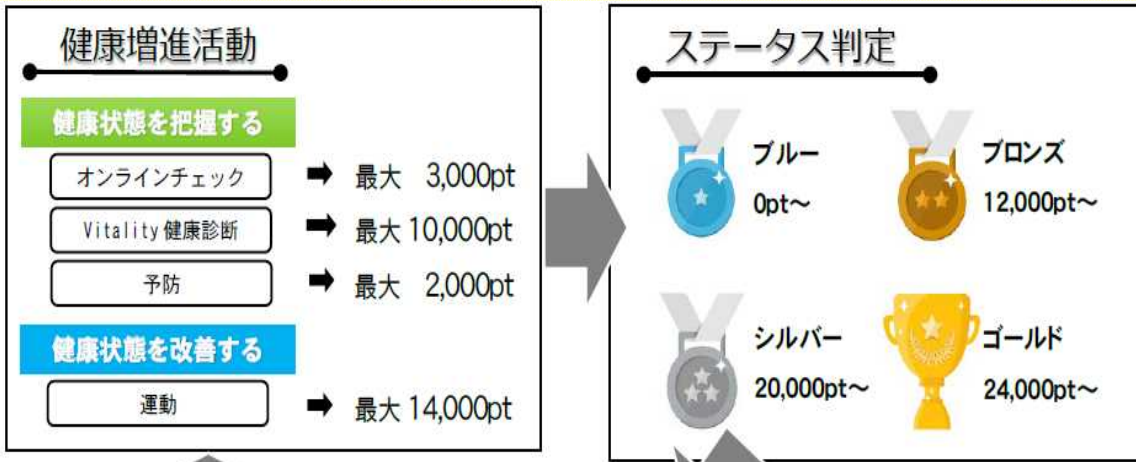
*日本人の平均歩数を基準とすると、
男性はプラス約230歩、女性はプラス約1,230歩で
平均8,000歩を達成。



スポーツの実施によりインセンティブが図られる取組②

【健康増進型保険 住友生命「Vitality」】

○「加入時またはある一時点の健康状態を基に保険料を決定し、病気等のリスクに備える」という従来の生命保険とは一線を画し、「加入後毎年の健康診断や日々の運動等、継続的な健康増進活動を評価し、保険料が変動する」ことにより、「リスクそのものを減少させる」ことを目的とした商品。



■運動

歩数	64 歳以下	65 歳以上	20pt
	8,000 歩	6,000 歩	
10,000 歩	8,000 歩	60pt	
12,000 歩	10,000 歩		

心拍数	運動を 30 分行い、その間の平均心拍数が (220-年齢) の 60% 以上		40pt
	運動を 30 分行い、その間の平均心拍数が (220-年齢) の 70% 以上		60pt
	運動を 60 分行い、その間の平均心拍数が (220-年齢) の 60% 以上		60pt

フィットネスジム	60pt				
イベント	100pt	200pt	600pt	1,200pt	2,000pt
ウォーキング	4km 以上 10km 未満	10km 以上 15km 未満	15km 以上 30km 未満	30km 以上 50km 未満	50km 以上
ランニング	-	5km 以上 10km 未満	10km 以上 21km 未満	21km 以上 42.1km 未満	42.1km 以上
水泳	-	0.6km 以上 2.5km 未満	2.5km 以上 5km 未満	5km 以上 8km 未満	8km 以上
サイクリング	-	15km 以上 25km 未満	25km 以上 50km 未満	50km 以上 100km 未満	100km 以上
トライアスロン	-	-	14km 以上 25.75km 未満	25.75km 以上 51.5km 未満	51.5km 以上

・運動全体で年間合計 14,000pt まで
 ・1日あたり、各項目のうち最も高いポイントのみ獲得可能

企業におけるスポーツ大会の例①

【ザ・コーポレートゲームズ東京】

- コーポレートゲームズは、世界37か国85都市、累計100万人以上の方が参加している大規模スポーツフェスティバルであり、「ザ・コーポレートゲームズ東京」は、2014年（平成26年）の初開催から、2018年（平成30年）で5回目を数える。のべ参加企業758社、のべ参加者数34,000人以上が参加。2018年からは、「ザ・コーポレートゲームズ関西」も開催。
- 「ザ・コーポレートゲームズ東京2018 アジア パシフィック」は、2017年大会及び2018年大会において、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局による「beyond2020プログラム」(※)として認証されている。
(※) 日本文化の魅力を発信するとともに、2020年以降を見据えたレガシー創出のための文化プログラムで、多様性や国際性に配慮した文化活動・事業を政府が認証し、日本文化の魅力を国内外に発信する取組。
- リピート率は60%を超え、参加者は8歳から82歳と幅広く、平均年齢も35歳という最もスポーツに時間を割けない人たち中心の大会となっている。

【「ザ・コーポレートゲームズ東京2018 アジア パシフィック」の概要】

- 開催日程：2018年11月3日（祝）・4日（日） <競技大会、開閉会式、付帯イベント>
- 開催場所：東京都の湾岸エリア（中央区、江東区）等の10数カ所におよぶスポーツ関連施設
- 参加人数：約10,000名（予定）
- 開催競技：リレーマラソン・フル／リレーマラソン・ハーフ／フットサル／ドッジボール／野球／ソフトボール／バレーボール／綱引き／バスケットボール／大縄跳び／ボウリング／卓球 （合計12種目）



リレーマラソン



野球



ドッジボール



フットサル



大縄跳び



綱引き



ゲームズセレブレーション



クロージングアワードセレブレーション

企業におけるスポーツ大会の例②

【企業交流運動会 in KOBE】

- 神戸商工会議所創立140周年事業として、神戸商工会議所主催による「企業交流運動会 in KOBE」を9月1日（土）に開催。
- 商工会議所・商工会の会員企業・団体などの経営幹部・社員に対して募集をかけ、参加者を募り、33の企業・団体から申込があり、参加人数390名、応援者360名を数えた。



参加者での記念撮影



大玉送り



玉入れ

○参加者の声

- ・当日参加したメンバー、応援に駆けつけてくれたメンバーともに、大興奮のイベントとなった。終わったばかりではあるが、ぜひ、来年も開催を切望したい。
- ・応援として参加したが、他社の熱い応援に圧倒され、応援合戦を見るのも楽しかった。参加者もまた参加したいと喜んでいました。
- ・参加メンバー有意義な時間を過ごすことができた。
- ・普段使うことのできない施設で良い経験になった。
- ・社外の人とのコミュニケーションがとれてよかった。
- ・仕事以外での社内の様子が見れて楽しかった。
- ・みんなでチャレンジできて楽しかった。
- ・徐々に体を動かして楽しかった。
- ・競技を通じて自社社員のみならず、他社の社員さんと交流ができてよかった。



産経新聞
(平成30年9月2日)



毎日新聞
(平成30年9月2日)

【「企業交流運動会 in KOBE」の概要】

- 開催日程：2018年9月1日（土）
- 開催場所：ノエビアスタジアム神戸（兵庫県神戸市兵庫区）
- 参加人数：390名（33社：団体 40チーム）※応援者 360名
- チーム数：5チーム対抗（レッド、ブルー、イエロー、グリーン、オレンジ）
- 目的：（1）スポーツ実施率の向上、（2）健康経営の推進、（3）会員企業間のスポーツを通じた交流促進
- 企業協賛：18社
- 参加対象：商工会議所・商工会の会員企業・団体などの経営幹部・社員
- 開催競技：大玉送り／大縄跳び／チーム対抗綱引き／ハシレコータロー／玉入れ／ぐるぐる台風の目／チーム対抗リレー



企業におけるスポーツ促進の例

【イオンモールウォーキング（イオンモール各店：約140店舗）】

- 全国約140店舗のイオンモール館内にウォーキングコースを整備。天候や時間に左右されず、買い物ついでに気軽にウォーキングが可能。
- スポーツ庁の「FUN+WALK PROJECT」とも連携し、日常生活の中での「歩く」を促進。

● 4つのポイント（イオンモールHPより抜粋）

- ① お買い物ついでに時間を有効活用！
普段のお買い物時間を少し、ウォーキングに意識を寄せることで健康的な時間に。
- ② 時間や天候に左右されない！
いざウォーキングをしようと思ったら雨が・・・なんてことはありませんか？イオンモールなら天候や時間に関係なく、好きなときにウォーキングができます。
- ③ 安心の休憩スペース
館内各所にソファやベンチを配した休憩スペースが充実。お客さまの体力・ペースに合わせて自由にご利用いただけます。
- ④ 自動販売機・飲食店が充実！
館内各所に自動販売機や飲食店が充実しているので、ペースに合わせて水分・エネルギー補給ができます！！歩いて小腹がすいたらフードコート、レストランでおいしいご飯をどうぞ☆

<イオンモールウォーキングポスター・ウォーキングコースの例>



【記者発表会】

- 2018年9月11日(火)
- イオンモール幕張新都心
- 登壇者
 - ・イオンモール（株）吉田昭夫社長
 - ・北沢モールイメージキャラクター 清原果耶さん
 - ・スポーツ庁長官 鈴木大地

<イオンモールウォーキングコース装飾の様子>



オフィス街におけるスポーツイベントの例

【MARUNOUCHI Sports Fes①】

○MARUNOUCHI Sports Fes は2016年から始まる三菱地所株式会社、丸の内商店会、丸の内オアゾ商店会主催の丸の内エリアで展開されるスポーツイベント。エリア就業者へのホスピタリティ（健康&交流の促進）と来街者へエリア全体のPRを目的に、約2週間日替わりのスポーツコンテンツを提供している。「体力測定」や丸の内5種などのミニスポーツゲームを含めて、参加者は約1.5万人（来場者は約5万人）。トークショーや競技体験会を通して、メダリストや各競技のトップアスリートと触れ合うことができる機会を創出している。「ビジネスエリア×スポーツ」で新たな価値を創造している。

【MARUNOUCHI Sports Fes 2018】の概要

- 開催日程：2018年8月3日（金）～8月19日（日） <競技大会、開閉会式、付帯イベント>
- 開催場所：丸の内仲通り（丸の内エリア、有楽町エリア）・大手町仲通り、丸ビル、新丸ビル、丸の内オアゾ他
- 名 義：主催 三菱地所株式会社、丸の内商店街、オアゾ商店街
協力 NPO法人大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ） / 後援 スポーツ庁
- 参加人数：約15,000名（エリア来場者、約50,000名）
- プログラム：オープニングセレモニー／体力測定・丸の内5種／丸の内卓球スタジアム／スポーツ体験&デモンストレーション
丸の内ラグビーパーク／大手町GOLF DAY／FUTURE ATHLETE GALLERY／アーバンテラスサマーナイト他



オフィス街におけるスポーツイベントの例

【MARUNOUCHI Sports Fes②】

○丸の内中通りで12時から開催されたオープニングセレモニーでは、2週間にわたってこのオフィス街で開催されるイベントの概要が紹介され、鈴木長官やゲストアスリートからのメッセージに、大勢のお昼休みのビジネスパーソンが足を止めて耳を傾けた。

【オープニングセレモニー】



鈴木長官の挨拶



ゲストアスリートの体力測定



ゲストアスリートの丸の内5種



フォトセッション

○普段は多くのビジネスパーソンや来街者が集う、丸ビル周辺で様々なスポーツ体験ができる場を創出。昼休みや仕事帰りに立ち寄ってスポーツにチャレンジする姿の他、休日には家族を連れて訪れるビジネスパーソンも多くみられた。



丸ビル外構部に設置した「体力測定コーナー」は大人から家族連れまで多くの人でにぎわった。



同じく、丸ビル外構部に登場した「ボルダリングの壁」。初めてチャレンジする人も多かった。




東京駅近くの丸の内OAZOに設けられた「卓球スタジアム」。アスリートによるエキシビションマッチの他、一般参加者を募った大会も開催された。

オフィス街におけるスポーツイベントの例

【MARUNOUCHI Sports Fes③】

【道路空間を活用した運動遊び・スポーツ空間の創出】

- 丸の内エリアでは道路空間を活かして街に新たな賑わいを生み出す目的で、丸の内仲通りを中心とする道路を歩行者へ開放し、移動式店舗・オープンカフェやアート等を楽しめる空間を目指す「アーバンテラス」を実施している。本イベントにおいても、道路空間における子供の運動遊び（みちあそび）や、スポーツ体験等を実施。
- 2018年度は、街のさらなる活性化と「働き方改革」に伴う余暇時間の充実及びその機会拡大を狙い、8月6日（月）～8月10日（金）の期間に交通規制時間を22時まで延長（通常は17時）し、「アーバンテラスサマーナイト」を実施した。夜間時間帯の規制は初の試み。

※  のエリアでイベント期間中、スポーツデモンストレーションや&体験会を実施



スポーツ体験や“みちあそび”の例（丸の内仲通り～有楽町エリア）



【アーバンテラスサマーナイトコンテンツ内容例】

8月6日（月）

- ・18:30~19:00 アスリートトークショー /丸の内二丁目ビル前
- ・12:00~20:00 体力測定 /丸ビル前

8月7日（火）

- ・18:30~20:00 熱闘！玉入れ大会 /丸ビル前

8月8日（水）

- ・17:50~20:00 陸上（棒高跳び、幅跳び、短距離） /丸ビル前

8月9日（木）

- ・17:50~20:00ユニカール体験（ユニバーサルカーリング） /丸ビル前

8月10日（金）

- ・17:50~19:00フェンシング体験 /丸ビル前

(参考)

まちづくりの計画の中に 健康増進効果を取り入れている例

※国土交通省公表資料及び「コンパクトシティ形成支援チーム会議」資料よりスポーツ庁作成

「スマートウェルネスみつけ」の実現 ~都市部と村部が持続する歩いて暮らせる健幸都市~

<見附市立地適正化計画図>



<集約区域内>

交通 バスで拠点を連結

○市役所等の都市機能が集積する見附地区と他の地区をコミュニティバスで結び、回遊性を向上。運行間隔を25分短縮(45分(H26)→20分(H32))

▶コミュニティバスの年間利用者数を約63%増加(12万人(H27)→20万人(H32))



拠点 まちなかへ都市機能を集積

○空き商業施設を改修し、市民の交流拠点として、健康運動教室、物産コーナー、子育て支援等の機能を集積。

▶年間利用者数50万人。



○まちなかにコミュニティ銭湯を整備。

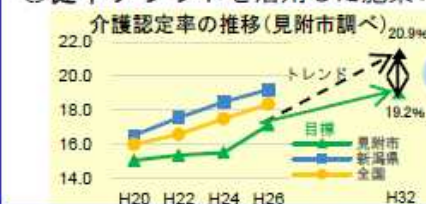
▶年間利用者数24万人。



高齢者の外出機会を増加

健康 歩きたくなるまちなか

- 全国初の「歩こう条例」「健幸基本条例」の施行
- 健幸ウォーキングロードなど歩ける環境の整備
- 健幸ポイント制度*の導入
*歩数や運動教室への参加等によりポイントが貯まり、地域商品券等と交換可能
- 健幸クラウドを活用した施策の実証的検証



(株)つくばウェルネスリサーチと連携

歩く高齢者数を増加

期待される効果

高齢者の介護費用を5.1億円/年(※)削減

※見附市の介護認定率の目標値及び「平成27年度 介護認定給付費等実態調査(厚生労働省)」に基づく一人あたり介護費用190.9千円/月より国土交通省が試算

居住

幹線バス路線沿線への居住誘導

公共交通の便利な地域を居住誘導区域に設定
(市街化区域の57%)
(郊外団地は生活環境を維持しつつ誘導区域に含めない)



居住誘導区域へ3.3万人誘導(区域外人口の約20%)

居住誘導区域の人口密度を維持
51.2人/ha(H27)→51.2人/ha(H47)

まちなかへの居住誘導

- まちなか2地域の5プロジェクトで約1100戸供給(予定含む)。更に4プロジェクトも検討中。
- まちなか居住を支援 (取得:上限50万円/戸 賃貸:上限24万円/年)



歩いて暮らせる
まちなか居住者の
増加

交通

ビッグデータや地域住民の意見を反映させた、生産性の高い持続可能な地域公共交通の再構築

- ビッグデータで乗車率の高いダイヤを設定
- 乗継拠点の整備と併せて路線分割を行い、幹線と支線を役割分担 (岐阜駅のハブ化も実施)
- 地域住民が、ルート、ダイヤ、運賃を決定するコミュニティバスを運行



沿線人口の増加によりバス利用者増加

バスの利便性向上により沿線人口増加

岐阜市柳ヶ瀬健康ステーション(健康チェック、健康づくり教室、健康相談等)

健康・運動施設 (健康増進、健康相談)

福祉・医療等施設 (3Fフロア)

都市部の回遊性向上
歩行者空間の確保

福祉施設 (特養等)

まちなかへのバス+徒歩の
アクセシビリティ向上

バス年間利用者数

	万人	5年増減	
H12	2,390		
H17	1,780	▲610 -26%	全国平均: 2%減 (H17→H25)
H22	1,800	+20 +1%	
H27	1,730	▲70 -4%	
H32	1,900	+170 +10% <目標>	

バス利用者増・運行の効率化により乗車効率約2割向上

運転手不足に対応

健康

まちなかへ出かける仕掛けづくり

- 市街地再開発と合わせて、まちなかに健康・運動施設(トレーニング施設等)を整備
- 中心市街地空き店舗を活用した健康ステーション
- 歩車分離、ウォーキングコースの案内、トイレ整備
- 健康づくり活動へのポイント制度を導入
- 住民参加型の健康づくり運動(各地域で実施)

自治会の協力でウォーキングイベント実施

成人に占める8000歩/日歩く人の割合が増加

26.7%(H28)→50%(H33)^{※2}

医療費抑制
約27億円/年^{※1}

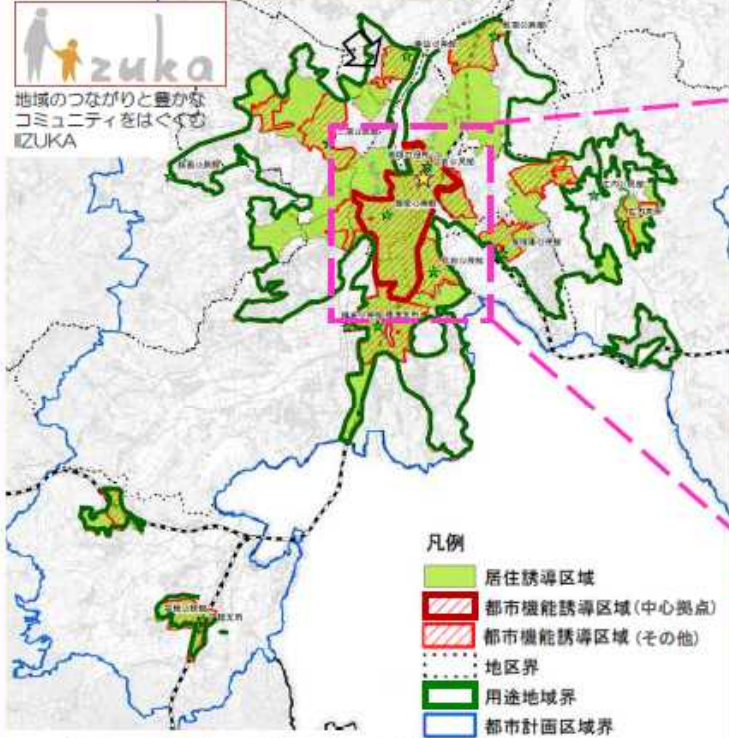
全国平均=32.4%^{※3}
^{※2}第三次ぎふ市民健康基本計画より引用
20歳以上の岐阜市民7.9万人(歩行数4000歩以上~8000歩未満)が8000歩、歩くよう(歩行数平均1300歩増加)になれば達成

※1 岐阜市の設定する各計画の目標が達成された場合を仮定して国土交通省試算 ※2 国民健康・栄養調査(2008~13年、2012除く)から国土交通省算出

福岡県飯塚市:人口約12.9万人(H27)↘約11.9万人(H38)

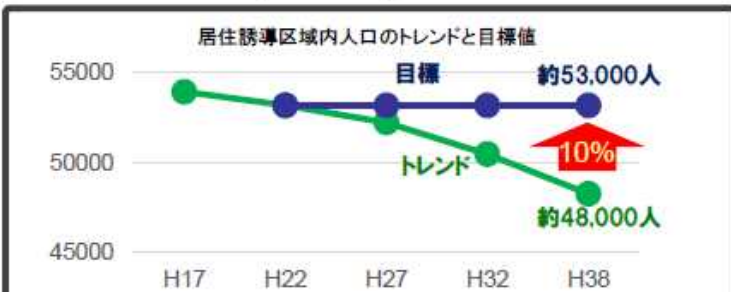
現行の用途地域の **51%** に居住誘導区域を限定し、人口減少トレンドの中、密度を確保

都市機能誘導区域を複数設定。地域の実態にあわせ、誘導施設を設定し、必要な生活サービス施設等を確保。



10年間、居住誘導区域内の人口を維持し、

推計値から、**約10%** の人口増を実現



まちなかでの先行的な取組の効果を全市的に波及

まちなか居住の推進

まちなかの福祉サービス向上による居住の推進

- まちなかの住宅供給
再開発(ハスターミナル等)や区画整理(子育てプラザ等)などにより、151戸の住宅を誘致

都市機能誘導区域(中心拠点)
拠点病院、大規模な集客施設等を誘導



まちなかの賑わい創出



- 市庁舎建替
現在地(中心拠点)で建替を実施

- 商店街の空き店舗を活用
シルバー人材センターによる飲食店経営等

- 飯塚本町東地区
商業機能、子育て拠点等導入



まちなかの空き店舗の解消

- まちなか居住の促進や、多様な集客施設の集積により、空き店舗を解消



※①② 国土交通省試算

医療・福祉の拠点づくり

- 医療施設・学校のまちなか移転
・急患センター
・看護学校、訪問看護ステーション

医師会の協力により実現

地域包括ケアの拠点

福祉サービスの生産性向上

- 訪問系福祉事業者及び居住者をまちなか誘導し、福祉サービスの生産性を、

約13% 向上

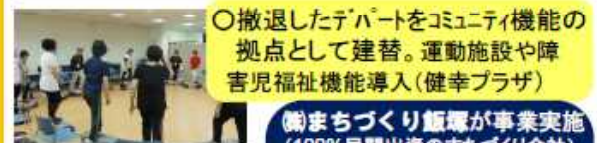
居住誘導区域内の高齢者人口密度が、区域外の約10倍となることから、訪問時の移動時間の短縮分を試算 ※①

健康寿命の延伸

福岡大学スポーツ科学部との連携

- ウォーキングコース整備
- ジム整備、健康教室の開催による歩行量増

ウォーキングイベントの参加人口の拡大
1,000人(H25) → 3,000人(H30) ※いいづか健康都市基本計画



- 撤退したデパートをコミュニティ機能の拠点として建替。運動施設や障害児福祉機能導入(健幸プラザ)

働きまちづくり飯塚が事業実施(100%民間出資のまちづくり会社) ※事業費約7億円

歩行量増加による医療費の削減

- まちなかから、全市的に歩行量の増加を波及させ、

約8.4億円 の医療費を削減

40歳~74歳の3割が一日当たり2,000歩増を想定医療費削減効果から試算 ※②

○コンパクトシティの多様な効果の一つである健康増進効果を把握することを目的に、身体活動の基本であり、まちづくりの指標となる歩行量(歩数)の調査のためのガイドラインを策定

I ガイドラインの背景

- コンパクトシティの取組によって歩行量(歩数)の増大が期待される
- 歩行は身体活動の基本、歩行量(歩数)の増大により健康増進効果が期待される

図1 移動行動における一日一人あたりの歩行量 (歩/人・日)

図1出典:「健康増進のための歩行量実態調査とその行動特性分析」への応用(筑波大学谷口教授ほか)をもとに国交省作成

II 日常生活における歩行量(歩数)の特性(資料2)

- 多く歩く人の存在が平均を押し上げており、モニタリングには中央値を採用することを推奨
- 都市規模別、男女別、年齢別の中央値を整理(都市規模が大きいほど歩行量(歩数)が多い→Iと合致)
- 高齢化(加齢)により歩行量(歩数)は急減する傾向

図2 男女別歩数の分布

表1 1日当たりの歩数分布

都市規模別・年代別(男女計中央値)(例)				
	大都市+23区特別区	15万人以上	15~5万人	5万人未満
20代	7,568	7,036	6,954	6,507
30代	7,001	6,794	6,549	6,220
40代	7,398	6,973	6,815	6,905
50代	7,528	6,812	6,628	6,449
60代	6,521	6,155	5,961	5,624

図3 男女別年齢別歩数の中央値の推移

表1, 図2, 3出典:国民健康・栄養調査(2008~13, 12除く)をもとに国交省作成

III 取組の流れと検討のポイント

- 地方公共団体における取組フロー、留意点を提示
- 特に重要な目標・効果・調査手法はIV・Vで詳細化

- 1. 目標の設定**
 - 立地適正化計画制度の活用
 - 目標の設定と効果の試算
- 2. 調査手法の選定**
 - 各種調査手法の特徴を踏まえて調査手法を選定
- 3. 調査の実施、分析**
 - 歩行量(歩数)の特性を踏まえた分析の留意点
- 4. モニタリング(継続調査)**
 - 継続調査とPDCA

IV 目標の設定と効果の試算(資料3・資料5)

- 目標設定の考え方を提示(健康日本21(第二次)の歩数目標等)(例 +約1,500歩、男性(20~64歳) 9,000歩(65歳~)7,000歩)
- 既往の研究等から歩行による医療費抑制効果の原単位を整理(1日1歩あたり~円の医療費抑制効果があるのかについて整理)

V 調査手法の特徴とモニタリングのための調査手法の提案(資料4)

- パーソントリップ調査、プローブパーソン調査、歩数計調査、アンケート(IPAQ)調査の特徴を整理
- モニタリングのための調査手法の提案と分析における留意事項を整理

※ 健康増進効果に着目したまちづくりの取組については、「健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン(平成26年8月)」を参照。